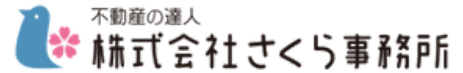


報道関係者各位



台風6号の事例から見る、避難行動の「個別解」 新・防災気象情報、初稼働で浮かんだ「情報と行動のギャップ」

個人向け総合不動産コンサルティング・ホームインスペクション（住宅診断）、マンション管理組合向けコンサルティングを行う"不動産の達人"株式会社さくら事務所（東京都渋谷区／代表取締役社長：山本直彌）の地盤・防災コンサルタントである横山芳春は、本格的な出水期を前に、防災コラムを新たに公開いたしました。本コラムでは、2026年5月29日に気象庁が運用を開始したばかりの「新たな防災気象情報」の概要を解説するとともに、統計史上4番目に早い上陸「台風6号」本格的に稼働した新制度の事例を検証、そこから見えてきた実際の避難行動の現状と、立地・住まいごとに異なる「情報と行動のギャップ」、避難行動の課題について解説します。

台風6号での新・防災気象情報と避難行動のギャップ

大雨や河川氾濫などの危険度を、避難行動と直結する5段階の「警戒レベル」の数字と組み合わせて分かりやすく発表する新たな防災気象情報が、2026年（令和8年）5月29日より運用開始されました。統計史上4番目に早い上陸となった『台風6号』では、新たな「レベル5 氾濫特別警戒」などが発表される機会となりました。しかし、一部地域では避難指示が発令されても避難者がごく少数にとどまるなど、これまでの災害でも懸念されていた、「情報と実際の避難行動のギャップ」が発生していたことも浮き彫りになっています。

避難情報と「住まいごとのリスク」のギャップ

気象庁から分かりやすい新たな防災気象情報が発表され、自治体から避難指示等が発令されたとしても、私たちが実際に行動を起こす際には、深刻に考えておくべき「課題」があります。それは、「自治体の全域に避難指示が出ても、その全員が指定避難所へ行く必要はない」ということです。「避難」とは、その文字が指し示す通り「難を避ける」ことで、避難行動は以下の2つの要素の組み合わせで決まります。

- ① 地域の浸水深（ハザードマップ等による『面』のリスク）
- ② 建物の構造や階高（ご自宅ごとの『点』のリスク）

これらが掛け合わされることで、同じ地域に住んでいても、平屋、マンションの2階以上、盛土された家など住まいの状況・構造や住む人の属性により取るべき行動は1軒（1室）ごとに極めて個別性が高くなり、例えば水害からの避難行動としては、以下の3つに分かれます。

- A) 水平避難が必要な人（建物内だけでは難を避けることができず、高台等の安全な場所へ移動する必要がある）
- B) 垂直避難が必要な人（上階への避難で難を避けることができる）
- C) 避難が不要な人（避けるべき難がそもそもない）

現在、①立地リスクについては自治体が公開するハザードマップが有効ですが、マップに反映されない局地的なリスクも存在します。さらに、②の「滞在している建物がどのような構造・階高で、浸水が及ぶ可能性があるか」については、地盤高や建物構造など建物側の要素もあり、「我が家はどうすればいいか」の個別解を相談できる公的な仕組みが不足しています。A)～C)のいずれの行動を、いつ取るかの判断は個人には難しいこともあって、提供される情報と実際の行動のギャップに繋がっている課題が改めて明確になりました。



新たな防災気象情報から見た避難行動の課題とは？

<https://www.sakurajimusyo.com/cont/col/life/42850>

疑問・質問がある方はお気軽にお問合せください。専門家が取材に対応させていただきます。

さくら事務所では、住まいの防災コンサルティングを本格始動することを記念し、**地盤・防災コンサルタント 横山芳春によるオンライン個別相談を無料で実施します。**方法：オンライン（Google Meet使用）、実施組数：抽選10組（当選者の方にのみ連絡）、当落：当選者のみ連絡、応募期間：6月30日まで受付。ご応募は応募フォームから→<https://forms.gle/dp133auiBrPUXvZD6>

さくら事務所について

株式会社さくら事務所（東京都渋谷区／代表取締役社長：山本直彌）は「人と不動産のより幸せな関係を追求し、豊かで美しい社会を次世代に手渡すこと」を理念として活動する、業界初の個人向け総合不動産コンサルティング企業です。1999年、不動産コンサルタント長嶋修が設立。第三者性を堅持した立場から、利害にとらわれない住宅診断（ホームインスペクション）やマンション管理組合向けコンサルティング、不動産購入に関する様々なアドバイスを行う「不動産の達人サービス」を提供、78,000組を超える実績を持っています。

株式会社さくら事務所

広報室：堤

 東京都渋谷区桜丘町29-24 桜丘リージェンシー101

 press@sakurajimusyo.com

 03-6455-0726

 FAX 03-6455-0022

 <https://www.sakurajimusyo.com/>